

(2012年度山西大学奨学生レポート6月)

## 太原の夏

後藤 千恵

6月の太原は気温の高い日が続いています。あまり雨が降らない太原で1週間に4, 5度雨が降っているのでもっともより雨が多いたと感じますが、日本の「梅雨」のような特別な呼称はないそうです。

さて、今回は夏が来た太原の食べ物と夜の公園についてレポートさせていただきますと思います。

6月中旬、道端に屋台が出ているのを見て寄ってみると、涼しげな食べ物が売られていました。それは「涼粉」(リャンフェン)というくずきりのような見た目の小吃(シャオチー:軽食のこと)で、そこでは塊から切り出していましたが、あらかじめ成型して固められているものもあります。

実は、ここでは夏でも冷たい食べ物が多くありません。野菜はほぼ全て熱を通して調理されますし、麺類も暖かいものがほとんどです。その中でこの涼粉はひんやりして夏にぴったりの食べ物です。

私が食べた涼粉はその場で塊から切り出した上にきゅうりの千切りを乗せ、酢がベースのたれをかけるというシンプルなものでしたが、ぷるぷるとした食感の涼粉とすっきりとしたたれが合わさってとてもおいしくいただきました。夏場で食欲のない時にもこれなら食べられそうです。

太原の夏は日が暮れると気温が下がり、少し涼しく日本とは違ってとても過ごしやすい日が多いです。そんな中、日が暮れると人が公園に集まりはじめます。日本の公園と比べると規模が大きく、公園の中には広場が、中心には湖があります。入り口には食べ物などの露店が並び、広場では人が集まって歌っていたり踊っていたり、とにかく賑やかでこっちまで楽しい気分になってきます。また、湖の周りは静かで風が吹くと特に涼しく、ここでもたくさんの方が散歩に来ていました。これは何か特別な集会やお祭りではなく、毎日このように公園で時間を過ごしているそうです。私が行った日は9時を過ぎてもにぎわっていました。このようににぎやかな、またゆったりとした夜の過ごし方も新鮮で楽しいものでした。



涼粉を売っている屋台です。右下の白い塊からその場で削って作ります。



公園の広場の様子です。このように歌う人を囲んで聞いていたり、合唱していたりとにぎやかでした。